
日本図書館協会 第37回 図書館建築賞 (資料)

〔講評〕

受賞館：安城市図書情報館（愛知県）

安城市図書情報館は、JR 安城駅南口周辺の賑わいを取り戻すべく建設された中心市街地活性化拠点施設「アンフォーレ」の中核施設で、駐車場、カルチャースクールなどが入居する民間施設とは2階ペDESTリアンデッキで連結されている。敷地西側には、イベント会場にもなる願いごと広場や御幸公園が整備され、市民に開放されている。

2～4階が図書情報館で、2階は児童書や地元ゆかりの児童文学作家新美南吉を紹介する「なんきちさんのへや」など、3階は「らBooks」と名付けられた中高生向けの本や話題の本、グループ学習室の他、周囲にもオープンなグループ席を多数用意、4階は学術性の高い一般書や文学、地域資料などが排架され、他階と同じく外周部の「でん」など、学習環境を充実、5階には学校図書館支援室など、フロアごとにイメージカラーを変えてサービス内容の違いをわかりやすくしている。

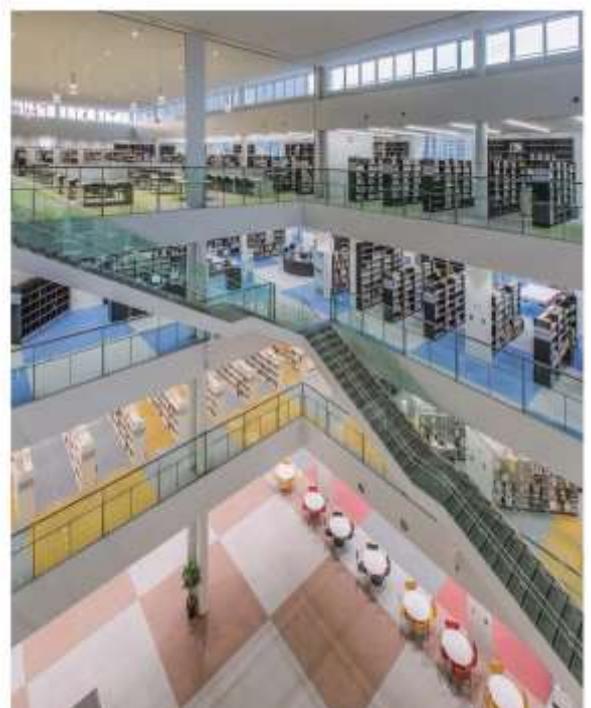
また、各階に関係各課によるサービススペースが併設され、2階では3歳児までの子と保護者が利用できる子育て支援「つどいのへや」、3階には市民の健康づくりをサポートする「健康支援室・講座室」、専門家によるビジネス支援サービス「安城ビジネスコンシェルジュ(ABC)」の部屋がある。

PFI事業の制約された条件の中で、図書館は直営を維持しながら、運営基本計画や図書館評価を実施するなど、資料を仲立ちとして人と人を結び付ける図書館サービスを指向している。そのソフト展開を支える十分な広さや機能を備えていると評価し建築賞に選定した。



▲中心市街地活性化拠点施設「アンフォーレ」の中核施設。（安城市図書情報館）

©Koji Horiuchi



▲下階から上階への段階的に動から静へと機能特性を変化させている。4層の吹き抜け空間が視覚的につながる。（安城市図書情報館）

日本図書館協会 第37回 図書館建築賞 (資料)

〔講評〕

受賞館：梶原町立図書館（高知県）

梶原町立図書館は、町役場などに続く5件目の隈研吾氏設計の建築として、旧小学校跡地に福祉施設と一体的に新築された。既存の体育館や保育施設と芝生広場を囲むように建て、中の様子のわかるガラススクリーンを福祉施設まで連続させ、多世代が集いやすい場を創り出している。

内部に入ると、柱上部にまとう樹状模様の木組を、屋根の段差を利用した窓から入る光で浮き立たせて、森の木洩れ日のような印象を醸し出している。床は棚田をイメージしたという段差があり、2階までの途中にあるステージや井戸端エリアを大きな階段がつないでいく構成で、郷土の歴史に思いを馳せる書架が立体的に連続して見える。階段は緩やかで、腰掛けて本を読み、語らうこともできる。交流広場でイベントを行う時には客席になり、逆にステージとしても使える。

2階は、一般図書フロアと、ライブラリーと名付けられた4つの小部屋が連なる。それぞれの本棚のテーマを表現する海洋堂のジオラマも所々に組み込まれ、彩りを添えている。

高齢者施設への配本車などアウトリーチサービスも手厚く、同じ設計者による町内の建築群が観光資源となり訪れてくる滞在者は貸出カードも作れる。これらの企画は柔軟な発想を実践に移す司書の役割が大きく、図書館の成長とともに歩む姿勢が好ましい。馴染みやすく魅力ある空間を創り、意欲的なサービスを展開し続ける、小さな町の図書館の好例として建築賞に選定した。



©川澄・小林研二写真事務所

▲山並に呼応する屋根。手前が図書館、奥につづく福祉施設と一体的に整備。（梶原町立図書館）



©川澄・小林研二写真事務所

▲1階交流広場から梶原の棚田をイメージした階段をみる。この階段でイベントも開かれる。（梶原町立図書館）